

令和6年2月7日

日立理科クラブ通信

No. 219



日立理科クラブ

「理科室のおじさん」を訪ねて2 日立市立諏訪小学校

今回は、諏訪小学校（荒蒔克一郎校長）の眞田 高宥（さなだ たかひろ）さんです。

眞田さんは愛知県北設楽郡東栄町の出身です。戦国時代の頃は交通の要衝で、武田信玄や勝頼が進軍した所だそうです。

子どもの頃、家では、養蚕をやっており、カイコのために桑の葉を摘んだり、手入れをしたりする手伝いをしてきました。また、炭を作るために雑木を切ったり、その後に杉を植えたりする手伝いもありました。とても忙しくて家で勉強する時間はなかなか取れなかったのですが、学校で一所懸命勉強し、とても数学が好きでした。

理科クラブに入る前は、日立製作所で原子力プラントシステム計画、発電所機器配置などの仕事をしていました。日本のエネルギーを支える仕事をしてきたのですね。退職後も東京にある電力中央研究所で原子力機器共通原因故障データ分析研究などを行っていたそうです。その頃から、ボランティアで学校の授業支援を行ってきました。

理科室のおじさんは、諏訪小学校が6年になります。学校では「理科先生」とか「理科おじさん」と呼ばれているそうです。白衣がとても似合います。眞田さんは児童とともに仲がよさそうで、取材したこの日も、何人も理科室に遊びに来ました。子どもたちは、科学おもちゃで遊んだり、眞田さんとお話やトランプをしたりすることもあるそうです。

理科室では、実験の準備や環境整備等をしています。先生とコミュニケーションを取りながら準備し、一緒に予備実験をするなど、先生がやりたい実験を、安全でスムーズにできるように準備することに心がけているそうです。会社員時代に、「文献を見てもそのままやるな。自分で試験しろ」と先輩から何度も言われたそうですが、本に書いてあるから正しいのではなく、自分で試すことではじめて自信を持つことができると信念を持ち、準備を怠らないようにしているとのこと。

子どもたちに伝えたいのは、「夢をもつこと」、「失敗してもいい、力一杯やろう」ということです。毎年、卒業生には手作りのしおりをプレゼントするそうです。そのしおりには、年によって、「夢」「希望」「絆」と一枚一枚ていねいに書いています。学校に遊びに来た卒業生に「しおりをもっています」と言われたこともあります。そのときは本当にうれしかったと話してくれました。

理科室には、6年生が作ったモビールがありました。バランスがよくできているか、一つずつ確認しているようです。できあがったモビールを持つ6年生の集合写真を撮ることを楽しみにしているそうです。

最後に諏訪小学校のよさを聞きました。先生方のコミュニケーションがとてもいいことと、児童が明るく落ち着いていて、とても品があることと言っていました。理科室の窓からは日立の街並みと、太平洋が見わたせます。眞田さんは初日の出も諏訪小学校から見るそうです。昇降口近くには北沢計氏から寄贈された絵画が掲示されていました。子どもたちが学校で友達や先生と巡り会い、絆を深めながら成長する様子をあらわしているそうです。素晴らしい環境の中で子どもたちは心豊かに学習しているのを感じました。



「理科室のおじさん」眞田高宥さん



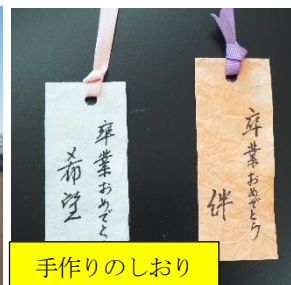
児童と偏光板を楽しむ



準備された教材



窓から見える景色



手作りのしおり



新築記念に北沢計氏から贈られた絵画